

# 経済地理メモ —社会主義国編—

## ④ チェコスロバキア

資料情報係  
Information service section

国名 チェコスロバキア社会主義共和国 (Československá Socialistická Republika)

面積 12.8万km<sup>2</sup>

人口 1,500万人

首都 プラハ (Praha)

国土 チェコスロバキアはチェク社会主義共和国とスロバキア社会主義共和国の連邦国家で その国土は東西に長く (700km) 国境線総延長の $\frac{3}{4}$ は社会主義友好国と接し  $\frac{1}{4}$ は西ドイツとオーストリアに接している。

経済地理的な位置 位置としては ヨーロッパの中心部に存在するということが最大の特徴で ヨーロッパ横断鉄道が縦横に走っているが 内陸国で 海に直接面していないので 経済的には不利な環境下にある。

人口 人口の自然増加率が高くなく 労働人口の不足に悩んでいるが それはとくにチェク共和国でいちじるしい。 チェコスロバキアの住民集落網は驚くほど稠密で 平均 2—3 km をおいて 人口 150—200 人の小部落が存在する場合が非常に多い。 しかし 絶対数では農村人口よりも都市人口の方が多く 5 万人以上の都市に住む人口は全体の66%に達している。 チェコスロバキアは多民族構成の国で チェク族が66% スロバキア族が28% そして残りがハンガリー族 ロシア族 ルテニア族 モルバニア族 シレジア族である。

宗教はカトリック信者が主体で 信者の75%を占めている。

公用語はチェク語とスロバキア語。

経済の全般の特徴 現在のチェコスロバキアは高度に発達した工業国であり 集約農業の国である。 経済構造は多角的であるが 主体は鉱工業にある。 世界の0.4%に満たない人口で 世界の1.5%に当る鉱工業生産をあげている。 とくに自動車・機械類と日用雑貨 (ガラス製品は有名) は 品質の良さで定評がある。 工業地帯は次第に東部に伸び スロバキアの工業生産は戦前の25—26倍に達し チェコスロバキア全体の27%を占めるようになった。

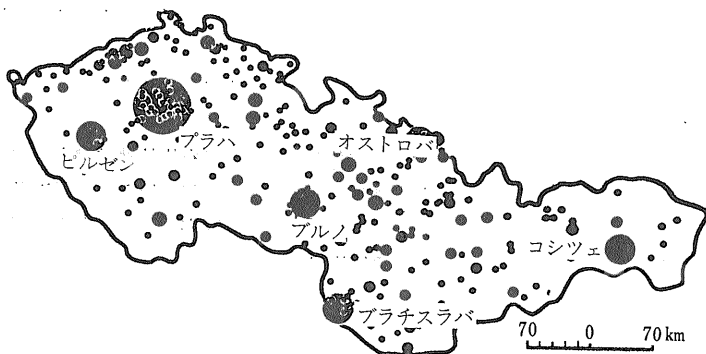
経済相互援助会議加盟国の中では 機械製造部門を中心とし 鉄鋼 石炭・コークス 軽工業製品を重点とした分担を行っている。

鉱業 この国の工業の発展は 高品質に恵まれた石炭と褐炭 菱苦土 鉛 カオリン 珪砂などの鉱物資源の産出にもとづくものである。

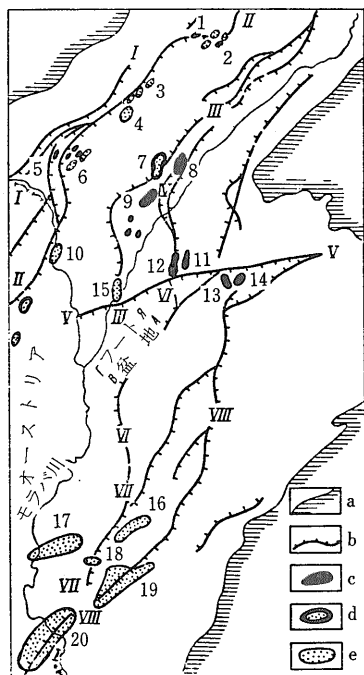
たとえば 褐炭は東ドイツやポーランドのものよりも高カロリーであり 瀝青炭は ポーランドの場合と違って 主にコークス用炭からなっている。

エネルギー資源は 最近まで国産の瀝青炭 (オストラバ-カルピナ炭田区) と 褐炭 (北チェク褐炭炭田区) が主体であったが 現在ではエネルギーバランスの中で占める石油と天然ガスの割合が増し 主としてその石油と天然ガスは石油パイプライン《ドルージュバ (友好)》とガスパイプライン《ブラットボ (友情)》《ソユース (同盟)》

を通じてソ連から輸入されている。 大部分の火力発電所は 褐炭 (主に北チェク褐炭炭田区産) を用いて操業されている。 スロバキアでは燃料資源が不足し そのため ソ連の援助でブラチスラバの北東に原子力発電所 (ヤスロフスケー・ボフニツェ発電所) が建設され 稼動している。 東ドイツとの国境に近いヤヒモフには 世界有数のウラン鉱床 (旧名ヨアヒムスタール鉱床) があり 核燃料には事欠かな



第1図 チェコスロバキア人口分布図



第2図 チェコスロバキア領分のウィーン油田・ガス田区油田・ガス田分布状況

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| I — シュラッテンベルク断層   | V — ファール断層         |
| II — シュタインベルク断層   | VI — スバトヤン断層       |
| III — ルジツク-プロツキ断層 | VII — ヤクボフ断層       |
| IV — ホドニン-グベル断層   | VIII — ラプ-シャシュチン断層 |
- 
- |               |             |
|---------------|-------------|
| a — 油田・ガス田区の境 | d — 天然ガス・油田 |
| b — 断層        | e — 天然ガス田   |
| c — 油田        |             |
- 
- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1 — ミロチツェ油田         | 11 — ノバベス油田    |
| 2 — ワツェノビツェ油田       | 12 — スタロベス油田   |
| 3 — ムテイニツェ天然ガス田     | 13 — ベトロワ-ベス油田 |
| 4 — ボドトボロフ天然ガス田     | 14 — シュテハノフ油田  |
| 5 — ビロビツェ油田         | 15 — プロツキ天然ガス田 |
| 6 — モラバ-ジジュコフ天然ガス田  | 16 — マラツキ天然ガス田 |
| 7 — ルジツェ天然ガス・油田     | 17 — スホベス天然ガス田 |
| 8 — ホドニン油田          | 18 — ヤクボフ天然ガス田 |
| 9 — モラバ-ノバ-ベス-チネツ油田 | 19 — ラプ天然ガス田   |
| 10 — ブルジュツラフ天然ガス田   | 20 — ブィソカ天然ガス田 |

主にソ連から輸入している。

い。

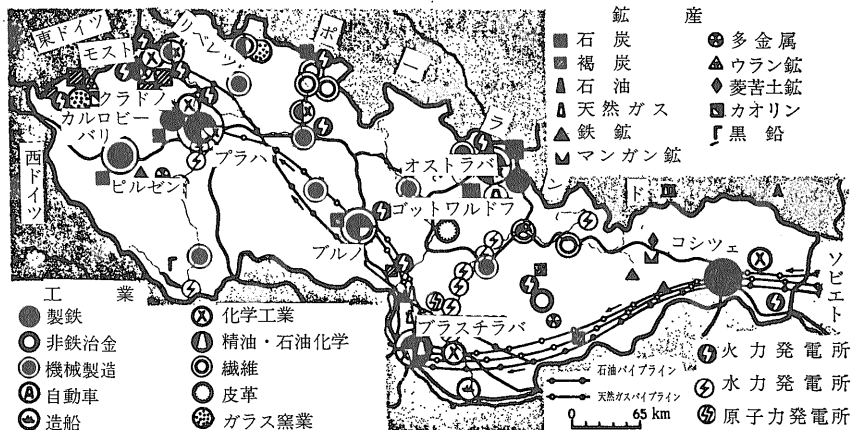
製鉄は国産のコークスと10%の国内鉄鉱 90%の輸入鉄鉱で行われ オストラバ トルシネツ コシツェ クラドノの4鉄鋼コンビナートによって1978年に990万tの鉄鉄 1,530万tの粗鋼が生産された。コシツェ鉄鋼コンビナート(1970年完成)が最大で オストラバ炭とクリボイログ鉄鉱(ソ連)を原料として稼働され その年産能力は粗鋼400万tである。

非鉄金属製錬の中心はズボレンで 主として亜鉛・鉛・銅の製錬が行われている。非鉄金属としては そのほかにマンガン タングステンなどを産出するが それら金属鉱物資源の生産が経済の発展テンポに追いつかず 銅と銅精鉱をブルガリア ポーランド ソ連から マンガン モリブデン クロムなど不足非鉄金属の大部分を

日本との関係 我が国は1957年12月にチェコスロバキアと国交を回復し 大使を交換した(チェコスロバキアの国連加盟は1945年10月)。我が国との貿易額は往復8,057万ドル(1977年:我が国貿易総額の0.06%) その内訳は対チェコスロバキア輸出額が3,501万ドル 輸入額が4,556万ドルである。我が国からの輸出は年によって変動が激しいが 我が国への輸入は年々10%前後伸びている。

文献

- 1) В. П. Макасовский 編 (1979) : Экономическая география зарубежных стран : издательство "Просвещение", Москва
- 2) Справочник: Чехословацкая Социалистическая Республика : 1980, Москва.
- 3) S, ドフスキー著. 岡田勝定訳 (1960) : チェコスロバキア現代経済史 : 東京 "合同" 出版社



第3図 主要鉱工業配置図